実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

（医療専門課程 理学療法学科 夜間部） 令和５年度

分類			授業科目名	教員名・授業科目概要・目的	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
○			基礎理化学	加藤　幸弘 理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、理学療法士に特に必要となる力学について物理学的な基礎知識から学び、また人体の基本的な関節運動のメカニズムを理解し関節運動を表現できるようにする。	1前	30	2	○			○		
○			コミュニケーション論	吉川　将太 医療従事者のコミュニケーションは、チーム医療の要であり、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。本科目では、理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、コミュニケーションの基本的スキルを身につける。また傾聴の意味を理解し、医療人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。	1前	15	1	○			○		
○			情報統計論	姉帯　飛高 理学療法士として5年間（一般病院2年、介護老人保健施設3年）の実務経験を活かした授業で、1）レントゲン、CT、MRI等より得られた画像から必要な情報を抽出し、解釈・応用する方法を実戦的に学習する。2）研究法や統計データの取り扱いについて学び、文献検索と客観的・批判的精読を通じて情報を取捨選択する過程を学習する。3）文献抄読会を行い、パソコンの基本操作やプレゼンテーションの基礎を理解する。	1通	30	2	○			○		
○			人間発達学	小松　昌久 理学療法士として肢体不自由児施設22年、小児専門病院3年の実務経験を活かした授業で、胎児期から老年期に至る人間の発達を通し、各発達段階における心身の成長および運動獲得について学ぶ。	1後	45	3	○			○		
○			基礎運動学	加藤　幸弘 理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、筋骨格・関節運動学などの基礎的知識から、人の基本的動作の構成、歩行、運動を継続する仕組みについて解剖学、生理学、その他の基礎医学での知識を統合して学習を進めていく。	1前	30	1		○		○		
○			生活環境論	植竹　教嗣 理学療法士として6年間（一般病院で3年、介護老人保健施設で3年）の実務経験を活かした授業であり、障害の有無に関わらず人が生きていく上で最も身近で、基本的に存在する生活環境を学ぶ。障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。生活環境論では、そのための基本的な理念と知識について学習する。	1後	60	4	○			○		
○			人体構造機能学Ⅱ	姉帯　飛高 理学療法士として5年間（一般病院2年、介護老人保健施設3年）の実務経験を活かした授業で、運動器（骨・関節・靭帯・骨格筋）それぞれの解剖学的特徴から、それらの機能を理解する。	1前	30	2	○			○		

○			人体構造機能学Ⅲ	姉帯　飛高 理学療法士として5年間（一般病院2年、介護老人保健施設3年）の実務経験を活かした授業で、中枢神経系と末梢神経系の基本構成について学習し、これらの疾患に応用する基本的知識を習得する。	1 前	30	2	○			○		
○			人体構造機能学Ⅳ	姉帯　飛高 理学療法士として5年間（一般病院2年、介護老人保健施設3年）の実務経験を活かした授業で、循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器の基本構造を学び、これらの疾患に応用する基本的知識を習得する。	1 前	30	2	○			○		
○			人体構造機能学Ⅴ	茂木　真/小川　朋郁 理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、人体構造機能学で学んだ骨・靭帯・筋・神経・動脈について、模型のデッサンや触診技術を通じて、周囲の組織との位置関係をより深く学んでいく。	1 前	90	6	○			○		
○			基礎病態論	持田　誠 理学療法士として一般病院で12年間の実務経験を活かした授業で、基礎医学領域と臨床医学領域の間に位置し、解剖生理学的知識をもとに様々な疾病の成因や病態を明らかにしようとする学問である。神経・運動器疾患やその他の疾患の成因や病態を理解しておくことは、理学療法を学ぶ上で重要であり、理解する必要がある。	1 通	30	2	○			○		
○			内部障害論	持田　太郎/瀬戸　勲 理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験を活かした授業で、吸引やAEDの使用方法について学ぶ。また、薬物の作用機序や副作用などについても学習する。この領域は生命に与える影響が大きく、リスク管理についても厳格に進めなければならない。そのため、正しい知識の習得が目標となる。	2 前	30	2	○			○		
○			機能障害論	加藤　幸弘 理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、身体機能の障害を理解することは理学療法を行う上で重要となる。特に疼痛のメカニズム、心臓、肺においての機能とその障害について生理学の復習を兼ねて理解する。	1 後	30	2	○			○		
○			整形障害論	加藤　幸弘 理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションで、対象となる主に骨関節障害の病態を画像とともに理解し、一般的に行われている整形外科的治療を理解する。	2 前	30	2	○			○		
○			臨床病態論	持田　誠 理学療法士として一般病院で12年間の実務経験を活かした授業で、病理学の基礎、様々な症候に対して行われる画像検査、生化学検査、生理検査などの諸検査の所見を学ぶ。	1 後	60	4	○			○		

○			神経障害論	茂木　真 理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、各論として、神経筋疾患を中心にその病因・病態・治療・予後について学習する。特に、リハビリテーション医療対象の難病などについては重要である。	2 前	30	2	○			○		
○			リハビリテーション概論Ⅰ	瀬戸　勲 理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験を活かした授業で、理学療法士の立場から保健・医療・福祉に関わる業務を実施する上で必要となる諸制度について理解する。 　また、理学療法の対象者の様々なニーズに対応ができるように、保健・医療・福祉に係る法制度の動向やサービスの内容を理解する。	1 前	30	2	○			○		
○			多職種連携論	瀬戸　勲 患者・家族に対して最適な医療を効率的に提供するためには、職種間協働に基づく「チーム医療」の推進が必要である。理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験を活かした授業で、健康・医療・福祉の専門職を目指す者として、対象者を中心としたチーム医療の意義、他職種連携を通じた調整や教育的役割を担う能力を学ぶ。	1 前	30	2	○			○		
○			理学療法総論	小川　朋郁/茂木　真 理学療法士の業務において「症状・障害の理解」と「理学療法介入」は必要事項である。理学療法士として診療所6年の実務経験を活かした授業で、理学療法の対象となる代表的な症状・障害について学習し、症状・障害と理学療法士の関わりについて理解を示すことを目的とする。	1 前	60	2		○		○		
○			臨床運動学	加藤　幸弘 リハビリテーションの臨床現場では力学的に物事を考え、臨床意思決定を行う機会が多い。例えば動作の介助や誘導のキーポイントを考えたり、異常動作の原因を推論することが重要となる。そこで理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、観察を中心とした運動分析、動作分析の方法を学習する。	2 前	30	1		○		○		
○			日常生活活動学	植竹　教嗣 理学療法士として6年間（一般病院で3年、介護老人保健施設で3年）の実務経験を活かした授業で、障害者・高齢者が生活をする地域社会、在宅生活の環境の中でQOLに密接に関わるものであり、リハビリテーションにおける重要な概念を学ぶ。それを理解し、各疾患毎のADL指導の実際について理解を深める。	2 通	90	3		○		○		
○			理学療法管理学	加藤　幸弘 理学療法士は、地域全体のリハビリテーションに関わる機会が多くなるため、その拠点となるリハビリテーション科の組織を強化する必要がある。理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、組織の能力を最大限に発揮する具体的な管理・教育について学び、理解を深める。	3 前	30	2	○			○		

○			理学療法評価法Ⅰ	小川　朋郁 理学療法士として診療所6年間の実務経験を活かした授業で、理学療法評価の意義・目的・過程について理解する。各検査項目の定義・目的・方法を理解し、実技を通してバイタル測定、形態測定、関節可動域測定法、徒手筋力検査法を学ぶ。	1 通	120	4		○		○		
○			理学療法評価法Ⅱ	瀬戸　勲 理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験を活かした授業で、理学療法で実施する各評価の意義と目的、方法と結果の記録について説明する。 また、各種評価結果の解釈・統合の方法を学び、疾患の症状について理解を深める。	2 前	120	4		○		○		
○			理学療法評価法Ⅲ	加藤　幸弘/専任教員全員 理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業を中心に、各症例情報をもとに基礎的知識を確認し、障害像から評価項目の立案、評価方法の検討、さらに正確性・再現性・妥当性のある理学療法評価の実施、評価結果の解釈について展開していく。	3 前	90	3		○		○		
○			理学療法評価演習	植竹　教嗣/専任教員全員 理学療法士として6年間（一般病院で3年、介護老人保健施設で3年）の実務経験を活かした授業で、模擬患者に対し各領域の理学療法評価の立案、正確性・再現性・妥当性のある評価の実施と記録、結果の解釈を行い、理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習する。	3 通	90	3		○		○		
○			基礎運動療法学	植竹　教嗣 理学療法士として6年間（一般病院で3年、介護老人保健施設で3年）の実務経験を活かした授業で、理学療法を行う上での可動域、筋力、平衡機能などの基礎知識について学習する。基本的な介入手段・各障害に対しての運動療法を学び、リスク管理についても学習する。	2 前	45	3	○			○		
○			整形障害理学療法	加藤　幸弘 理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、整形障害領域の障害の特徴を理解し、理学療法プログラムの選択について、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする。	2 後	60	2		○		○		
○			神経障害理学療法	茂木　真 理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする。	2 後	60	2		○		○		
○			内部障害理学療法	江原　裕作 理学療法士として総合病院15年間の実務経験を活かした授業で、循環器、呼吸器、代謝系疾患による機能障害に対する理学療法を学ぶため、基礎的な解剖、生理、内科学の知識を確認しながら理学療法を実践できるよう学んでいく。この領域は生命に与える影響が大きい疾患が含まれ、リスク管理についても厳格に進めなければならないため、正しい知識の習得が目標となる。	2 後	60	2		○		○		

○			物理療法学	江原　裕作 理学療法士として総合病院15年間の実務経験を活かした授業で、基本的な物理刺激が、物理療法として人体にどのように働くのかを理解し、各治療法の適応・禁忌・注意点を理解する。 また、各治療機器を用いて実習を行い、治療を行えるようにする。	2 前	60	2		○		○		
○			義肢・装具学	吉川　将太 義肢が十分な機能を発揮し、患者のADLが向上するためには、各職種間のコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、様々な義肢の適応と特性、セッティングについて理解することを目標とする。装具療法の意義・目的等を学習する。上下肢、体幹装具の種類について、また適合判定・適応について学習する。	2 前	60	2		○		○		
			小児理学療法	吉原　旦容/堤　俊介 理学療法士として総合病院15年間の実務経験を活かした授業で、種々の疾患の発症要因と病態を理解する。また，頻度の高い小児疾患の病態と疾患の特徴を理解し，それらに対する対応を系統的かつ全人的に学ぶ。さらに，障害を有した小児に対する医学的な評価法と理学療法の概略を学ぶ。小児期の各疾患治療・療法を通じてチーム医療の重要性を学ぶ。	2 後	60	2		○		○		
○			理学療法各論	小川　朋郁 理学療法において運動療法は重要な介入手段のひとつである。理学療法士として診療所6年の実務経験を活かした授業で、運動療法を施行するうえで必要な知識について学習する。また運動に伴う身体の変化・反応について理解し、運動療法への理解を深めることを目的とする。	2 前	30	1		○		○		
○			理学療法技術論	茂木 真/専任教員全員 理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する。	3 通	270	9		○		○		
○			地域理学療法学	吉川　将太 理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、地域リハビリテーションの理念、歴史を理解し、介護保険法や関連法規を学び、地域で実践されているサービスについての理解を深めていく。 グループワークを通して、模擬症例に対する介護保険サービスの利用を考え、知識を整理する。	2 通	90	3		○		○		
○			臨床実習Ⅰ	小川　朋郁/専任教員全員 6年間（診療所）の実務経験の理学療法士を中心に、関連施設の臨床現場を見学し、医療人・社会人としての意識を高め、自己が目指す理学療法士という職業を再確認する。今後の学習の必要性を認識し、学習意欲を高める動機づけにする。また、患者や職員と関わることで、コミュニケーション能力を高める。	1 後	45	1			○		○	○
○			臨床実習Ⅱ	瀬戸　勲/専任教員全員 理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験の理学療法士を中心に、地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における実施機関・施設（訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等）での見学実習を通して学ぶ。	2 後	45	1			○		○	○

○			臨床実習Ⅲ	吉川　将太/専任教員全員 一般病院1年と診療所10年間の実務経験の理学療法士を中心に、医療人としての資質の育成を育み、理学療法士としての業務や役割について理解を深める。また実習施設の機能や特徴を把握し、対象となる方を取り巻く、人との関わりについて考える。様々な対象となる方を通じて基本的な検査項目を臨床実習指導者のもと見学・模倣することで知識や技術の研鑽を行うことを目的とする。	3 前	270	6			○		○	○
○			臨床実習Ⅳ	小川　朋郁/専任教員全員 6年間（診療所）の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅲで学んだ知識や基本的な検査項目の見学・模倣に加え、臨床実習指導者のもと対象となる方への基本的な検査項目の実施及び治療を見学し、医療専門職としての責任ある態度や行動を学ぶ。対象となる方に応じた評価を見学・模倣・実施すること及び基本的な理学療法手段の見学を目的とする。	3 前	270	6			○		○	○
○			臨床実習Ⅴ	瀬戸　勲/専任教員全員 理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅲ・Ⅳで体験した理学療法評価の実施及び基本的な理学療法手段の見学に加え、対象となる方に応じた基本的な理学療法手段を模倣することでさらに自己研鑽することを目的とする。	3 後	315	7			○		○	○
合計				41科目									3030時間